東レ理科教育賞受賞者代表挨拶



金沢市立高岡中学校教諭　浅　見　拓　真

東レ理科教育賞受賞者を代表して、ご挨拶申し上げます。

このたびは、栄えある東レ理科教育賞を賜り、誠にありがとうございます。東レ科学振興会の皆様、ならびにご選考くださいました先生方に、心より御礼申し上げます。

本実践は、中学 1 年生「光による現象」において、『学び合い』による単元内自由進度学習を行ったものです。私は、学校は「人と生きることを学ぶ場」であると考えています。人間は「集団で生きる」という進化をして繁栄してきた存在です。だからこそ教室もまた、仲間と支え合いながら学ぶ場であるべきだと考えています。

授業では私は講義を行わず、「何を見ても、誰に聞いてもよいし、移動も自由だよ」と伝え、生徒に学びを委ねました。教師がすべてを説明するのではなく、生徒同士が対話を重ね、得意なことで仲間を助け、苦手なことは仲間に助けてもらう、そういう中で、理解に到達する環境を整えました。実物実験とデジタル教材を行き来しながら、言葉や公式を体験と結び付けて、「分かったふり」ではない確かな理解を目指しました。

子どもたちは委ねれば必ず応えてくれます。仲間と協働し、応用課題に挑戦する姿は、主体性が育まれている確かな証だと実感いたしました。

今回の受賞は、共に挑戦してくれた生徒たち、支えてくださった先生方のおかげです。本賞を励みに、これからも子どもたちが人と共に学び、人と共に生きる力を育む理科授業を探究し続けてまいります。本日は誠にありがとうございました。